

都市再生整備計画 事後評価シート

第3期巖原城下町地区

令和4年2月

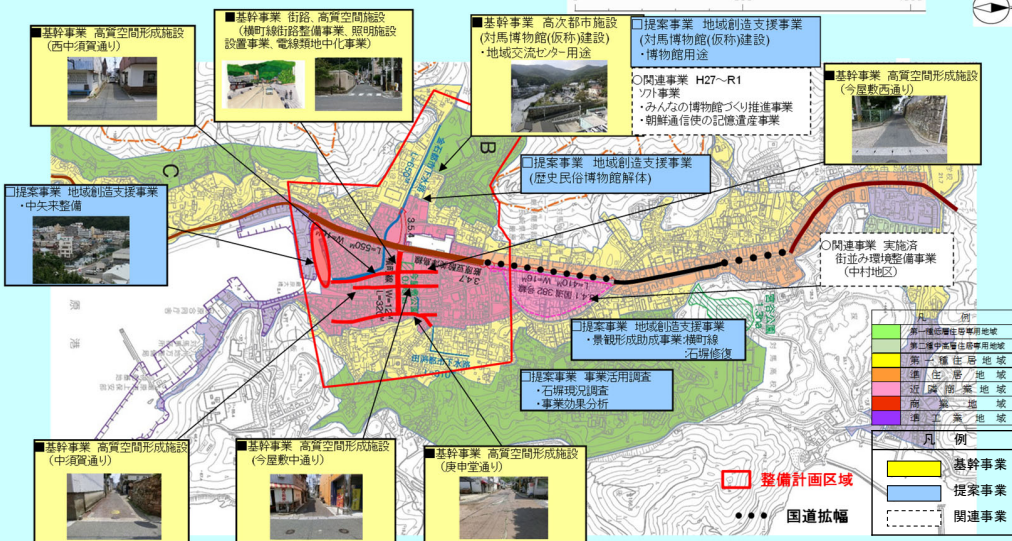


長崎県 対馬市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	長崎県		市町村名	対馬市		地区名	第3期厳原城下町地区			面積	40ha		
交付期間	平成27年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年度		交付対象事業費	2,681百万円	国費率	0.4				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	街路(横町線)、高質空間形成施設(西中須賀通り)、高質空間形成施設(中須賀通り)、高質空間形成施設(今屋敷中通り)、高質空間形成施設(今屋敷西通り)、高質空間形成施設(庚申堂通り)、高質空間形成施設(照明施設(横町線))、高質空間形成施設(電線類地下埋設施設(横町線))										
		提案事業	地域創造支援事業(景観形成助成事業・横町(横町線沿線))、地域創造支援事業(景観形成助成事業・石塙(区域一円))、地域創造支援事業(中矢来遺跡整備)、事業活用調査(石塙現況調査(地区内))、事業活用調査(事業効果分析(地区内))										
	当初計画から削除した事業	基幹事業	—										
		提案事業	—										
	新たに追加した事業	基幹事業	高次都市施設(地域交流センター(対馬博物館(仮称)内))		市と県により実施する博物館建設事業において、対馬市の運営管理する区域を対象に博物館機能以外で用途が市民に開放・使用及び修学の場を造り、地域コミュニケーションの促進を目的とする部分を基幹事業により追加。			事業の追加に伴い、指標4「博物館の来館者数」及び指標5「博物館周辺の施設利用者の数」を追加。					
		提案事業	地域創造支援事業(対馬博物館整備(合築))		市と県により実施する博物館建設事業において、対馬市が運営管理する区域を対象に博物館機能を提案事業として追加。			事業の追加に伴い、指標4「博物館の来館者数」及び指標5「博物館周辺の施設利用者の数」を追加。					
			地域創造支援事業(歴史民俗資料館解体)		三つの国指定史跡が群をなすエントランスとして再編整備するにあたり、歴史民俗資料館を解体し、街並み景観の向上また、観光資源を活用するため提案事業として追加。			事業の追加に伴い、指標4「博物館の来館者数」及び指標5「博物館周辺の施設利用者の数」を追加。					
	交付期間の変更	当初	平成27年度～平成31年度(令和元年度)		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	平成27年度～令和3年度										
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)
			基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度						
指標1		地区内のアンケート調査(市街地の安心感・快適性の不満度)	%	88	H26	60	R3	—	39	○	あり なし	都市計画道路「横町線」の整備により、東西の往来や緊急車両の乗り入れが容易となり、市街地の安心感・快適性の不満度の解消につながった。	—
指標2		地区内のアンケート調査(市街地の景観・歴史文化史跡の不満度)	%	80	H26	60	R3	—	28	○	あり なし	「横町線(電柱地中化・照明施設の設置)」、「西中須賀通り」、「今屋敷中通り」、「今屋敷西通り」などの修景や「景観形成助成事業・石塙(区域一円)」、「中矢来遺跡整備」などの歴史文化史跡の整備により市街地の景観改善や歴史的な雰囲気づくりが図られ、不満度の低下につながった。令和4年度に予定されている博物館の開館により、不満度のさらなる低下が期待される。	—
指標3		地区内の人の回遊数	人/日	648	H26	900	R3	—	279	×	あり なし	都市計画道路「横町線」、「西中須賀通り」、「今屋敷中通り」、「今屋敷西通り」などの道路整備により、まちなかの回遊性が向上したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う人の移動制限や自粛が要因となり、目標達成には至らなかった。	R4年4月以降(博物館開館予定)
指標4		博物館の来館者数	人/年	80,600	H26	83,600	R3	—	110,369(見込み)	○	あり なし	都市計画道路「横町線」などの道路整備や修景により、中心市街地の利用環境が改善されたことを受け、指標5博物館周辺の施設利用者数と同様に推移したと仮定すると、目標達成が見込まれる。さらに、新たに交流機能や情報発信機能を有する博物館が開館すれば、推計以上の効果も期待される。	R4年4月以降(博物館開館予定)
指標5		博物館周辺の施設利用者の数	人/年	13,970	H29	15,000	R3	—	11,208(見込み)	×	あり なし	都市計画道路「横町線」などの道路整備により、まちなかの利用環境が改善され、施設利用者数も年々増加傾向であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う人の移動制限や自粛が要因となり、目標には及ばなかった。	R4年4月以降(博物館開館予定)

3) その他の数値指標 (当初設定した数値 目標以外の指標)に よる効果発現状況	指標		従前値		目標値		数 値		目標 達成度※1	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の 数値指標1	博物館周辺の施設利用者の 数(日本人のみ)	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
			人/年	4,495	H29	/	—	9,685 (見込み)	/	/	新型コロナウイルスの影響により、海外からの観光客は大幅に減少したが、一方で、歩行空間の改善や修景によるまちの雰囲気づくりが進んだことにより、日本人によるまちなかの利用機会が増加した。	R4年4月以降 (博物館閉館予定)	
4) 定性的な効果 発現状況	・都市計画道路「横町線」の整備に伴う修景等の意見交換会において、整備方針についての意見交換を行い、住民の意見が反映されたことにより、地域住民のまちづくりに対する参加意欲向上につながった。 ・厳原城下町まちづくり整備委員会では、当会を核として意見交換会が開催されるなど地域住民のまちづくりに対する意識醸成につながった。												
5) 実施過程の評価			実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング		なし			都市再生整備計画に記載し、実施できた	—			—	今後は、策定予定の立地適正化計画等において、事業の進捗に応じて適宜モニタリングを実施する。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—			—			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●			●			
	住民参加 プロセス		都市計画道路「横町線」の整備に伴う修景等の意見交換会 【実施頻度】計1回 【実施時期】H29年9月13日 【実施結果】都市計画道路「横町線」の整備に伴い、照明施設、歩道舗装、植栽等について意見交換を行い集計に反映した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた					今後も、当該事業及びその他事業の進捗に応じて、適宜住民意見を取り入れる機会を設ける。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●			●			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	持続的なまちづくり 体制の構築		厳原城下町まちづくり整備委員会 (当会を核として、都市計画道路「横町線」の整備に伴う修景等の意見交換会を開催)			都市再生整備計画に記載し、実施できた	●			●	今後も、ワークショップ等を通じてまちづくり施策に関する意見を聴取しながら事業を進めていくことで、住民参加のまちづくり体制を継続する。平成30年に策定した景観計画に基づき、市民地区景観協議会の設置や地区の推奨色指針等の作成等も住民参加の体制を構築する。		
						都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—			—			
						都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	—			—			

様式2-2 地区の概要

第3期厳原城下町地区(長崎県対馬市) 都市再生整備計画の成果概要						
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値	目標値	評価値
「市民・観光客の交流拠点」としての中心市街地の再生及び安心な街づくり ・市民の快適な暮らしの醸成 ・高質空間を形成し観光客の回遊を誘導する		地区内のアンケート調査(市街地の安心感・快適性の不満度)	単位: %	88 H26	60 R3	39 R3
		地区内のアンケート調査(市街地の景観・歴史文化史跡の不満足)	単位: %	80 H26	60 R3	28 R3
		地区内人の回遊数	単位: 人/日	648 H26	900 R3	280 R3
		博物館の来館者数	単位: 人/年	80,600 H26	83,600 R3	110,369(見込み) R3
		博物館周辺の施設利用者の数	単位: 人/年	13,970 H29	15,000 R3	11,208(見込み) R3
都市計画道路「横町線」 				庚申堂通り 		
西中須賀通り 				中矢来遺跡整備 		
まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ●当初の課題①人口減少・高齢化社会に於いて市民生活の安定化、都市経営のための経済活力の確保のためには中心市街地の活性化が都市整備上の最大かつ喫緊の課題であることから、中心市街地が地域生活の中心となるような役割を確立する必要がある。 ⇒課題の変化: 都市計画道路「横町線」等の道路整備による回遊性向上と、歴史的資源の整備による一体的な雰囲気づくりが進んだ。また、博物館の開館により、さらなる活性化が見込まれる。一方で、地域生活の中心としての機能強化のため、空家の有効活用や公共施設の適正配置、老朽化が懸念される商業施設の対策や中心市街地への都市機能の誘導が必要である。 ●当初の課題②歴史的観光資源(宗家古文書や史跡)を活用し、観光交流の差別化を図るとともに対馬の「自然・歴史・文化交流」に関する情報発信や観光窓口の一元化が必要である。 ⇒課題の変化: 中矢来遺跡の整備により、歴史的観光資源を活用する基盤整備が行われたほか、博物館の整備により、情報発信機能の強化や観光窓口としての機能が見込まれる。一方で、対馬特有の景観である石塀・石垣を維持・保全することや、インターネットを活用した情報発信機能の強化による国内外への効率的かつ効果的な発信が必要である。 ●当初の課題③市が目指す今後の重要な経済基盤が、産業や自然と密接な繋がりを持ちながら交流人口の更なる拡大を図ることであり、この経済効果を中心市街地で受け止め、地域振興の核となる取り組みが必要である。 ⇒課題の変化: 博物館内に整備される地域交流センターが、島内外、国内外の人をつなぐ交流の場となることが見込まれる。一方で、博物館と厳原港ターミナル、ふれあい処つしまの連携による市街地への観光客の誘導や観光客の快適性・利便性向上に資する通信環境の改善が必要である。また、博物館開館後の利用者増を見据え、駐車場整備等の受け入れ体制強化が必要である。 ●当初の課題④当地区内の道路修景は歴史的に形成された特徴があり、地区形成のポイントであるが、歩道が狭く、交通安全の問題が多いことから市民や観光客が安全に回遊し、ゆっくりと時間消費が出来るよう、面的な意識をもった道づくりが必要である。 ⇒課題の変化: 都市計画道路「横町線」等の歩道整備による地区内の回遊性や安全面の向上、修景による歴史的なまちの雰囲気づくりが進んだ。一方で、整備済みの歩道や歴史資源を通じてまちあるきをしてもらうため、インターネットを活用した回遊ルートの提示などの観光導線の構築が必要である。 ●当初の課題⑤離島の都市であるため、市民が安心また快適な生活が営めるよう生活基盤の整備保全、災害時や緊急時に対応可能な施設整備が必要である。 ⇒課題の変化: 都市計画道路「横町線」等の道路整備により、市民が安心・快適に生活できる生活基盤の整備が進んだ。一方で、緊急車両の通行確保や避難場所の検討など、緊急時に対応可能な都市基盤を整備することが必要である。さらに今後は、地域住民の防災意識と災害対応能力の向上を支援する防災訓練等の継続的な取組が必要である。 					
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が気軽に楽しく集まれる場や、生きがいを持てる活動の場を創出することにより、地域生活の中心としての市街地の機能を強化し、中心市街地の活性化を推進する。 ・歴史的観光資源の整備や石塀・石垣の観光資源としての活用、国内外への地域資源に関する情報発信の強化により、観光客へ対馬特有の観光体験を提供するとともに、地域住民の愛着・誇りを醸成する。 ・博物館やふれあい処つしま、厳原港ターミナル等の拠点となる施設が地域振興の核として連携し、市街地への観光客の誘導や地域住民の多様な交流機会の創出を支えることにより、交流人口の拡大を図る。 ・歩道整備や観光導線の構築、駐車場の整備等により、安全にゆっくり時間をかけて、対馬の魅力を感じながらまち歩きできるような周遊環境を整備する。 ・だれもが安全安心に住み続けられるよう、行政と市民が一丸となって防災力の向上を推進する。 					